

2024年7月11日

開催加工食品輸出事業者のためのEU 包装及び包装廃棄物規則（PPWR）セミナーQ&A

	講師への質問	回答
EU規制の対象		
1	7条のリサイクル由来最低含有規制での除外規定 5 %未満は、一次包装でも除外されるのでしょうか。想定は一次包装プラスチック袋、二次包装は段ボール箱です。	そのように考えられる。
2	お酒の紙パックの容器についても同様に規制対象になりますでしょうか。 (牛乳パックは除外。日本酒の瓶は除外。)	そのように考えられる。
3	日本酒については、除外されましたが、クラフトビールの瓶・缶については規制対象となっているため、現状のままでは輸出できなくなる、という認識であっていますでしょうか。	そのように考えられる。
4	ラーメンスープ小袋を欧州向けに販売しようとしています。デザイン単位にて 溶出試験(OML,SML)をしなくてもいいのですが、PETやAL、ONY等の複層フィルムで今のところ実施予定です。このフィルム構成の場合、いつまで有効と考えると良いのでしょうか。	多層フィルムについては、2030年以降は第6条にあるように、A、B、C評価を満たせない場合、代替包装に変更する必要があります。
5	リサイクル品の最低使用率のところで、“その他”は、ガラスや紙は該当せず、このリサイクル品の最低使用率は、プラスチックにのみ適用されると理解していいのでしょうか。	ガラスや紙を含め全ての包装が対象となる。
6	当社加工肉成型用の人造ケーシングを製造しEUに輸出しています。ソーセージスキンは包材に当たらないとのことなので該当すると考えてよいのでしょうか。	過去の議論からその可能性があるが未だ確認できない。
7	リサイクルは「PETは進み、オレフィンは今後も難しい」という話がありましたが、欧州規制では、ケミカルリサイクルだとリサイクルと認められないという認識でお間違いないのでしょうか。	ケミカルリサイクルは将来技術開発が進んだとき認可される可能性がある。
8	紙容器（プラスチック＋紙）について、次の①～③の場合において、再生材使用率の分母になる重量は、紙容器全体でしょうか、プラスチック部分のみでしょうか。 ①プラと紙が簡単に分離できない場合、②プラと紙を力を入れれば分離できる場合、③プラと紙が簡単に分離できる場合	再生材使用率の算出方法はまだ詳細が決まっておらず、PPWRによれば2026年12月31日までに施行法が制定される。
9	リサイクルの回数についての定義・基準はあるのでしょうか。何回も繰り返し使用すればその素材のもつ機能が徐々に低下していくのではないかと素人目には感じています。	繰り返し使用の具体的回数は規定されていない。
10	輸出の際にストレッチフィルム等で荷崩れ防止をしていますが、今後商品輸出の際に使用するストレッチフィルム等も規制対象になる可能性があるかがわかれば教えてください。	輸送包装は対象となる。
11	日本酒のお話がありましたが、醤油の瓶は再利用義務の対象外になりますでしょうか。	醤油の包装が対象外になるとは聞いていない。

2024年7月11日

開催加工食品輸出事業者のためのEU 包装及び包装廃棄物規則（PPWR）セミナーQ&A

	講師への質問	回答
EUの動向		
12	使用している素材が規制に沿っているか照らし合わせるにはどのツール（サイトなど）を参考にしたら良いでしょうか。	複合された包装を対象として専用サイトはない。各部品ごとに確認することになる。
13	今後の多層フィルム使用可否への方針はいつ頃出るとお考えでしょうか。	PPWRによれば2028年1月1日までに関連の委任法が制定される。
14	EUのプラスチック容器メーカー業界では、「包装・包装廃棄物規則（PPWR）」への対応が進んでいるでしょうか？それとも、ほとんどのメーカーは、まだ準備を始めていないような状況でしょうか。	業界はPPWRの交渉の中でポジションを明確にしてきた。特にリユースではかつてないロビー外交があったと聞いている。
15	EUの食品業界では、「包装・包装廃棄物規則（PPWR）」をどのように受け止められているでしょうか。	総論賛成、各論反対の状況にある。
16	将来的にEUにおいては包装資材はプラスチックよりも紙が主体になってくるのでしょうか？	紙の比重が高まり、プラスチックは特定の材料に集中してくると考えている。
17	相互認証はEU域内で製造された商品に対しても同様に適用されるのでしょうか。例えばドイツで製造した商品をフランスへ輸出する場合も、フランスの国内法は考慮する必要がないということでしょうか。また、ドイツからEU非加盟国（スイス、ノルウェーなど）へ輸出する際には、各国の規制に従う必要があるという認識で宜しいでしょうか。	そのとおり。
世界の動向		
18	国レベルでの相互認証の動きはありますか？また中国とアメリカの動きはいかがでしょうか。	そうした動きは確認されない。
19	EUはじめ世界各国において、将来的に主要な包装材はプラスチックから紙へと変わっていくのでしょうか。	紙の比重が高まり、プラスチックは特定の材料に集中してくると考えている。
20	2030年以降のリサイクル基準を超えるのは大変厳しいと思いますが、包材も革新的に変わっていくのでしょうか。	例えばケミカルリサイクルのような革新的技術が求められている。
21	OPP(二重延伸ポリプロピレン)をタイ向けに考えているのですが、現在のOPPの使用に関しての海外の最新動向（リサイクル規制や使用可否）について教えてください。	タイにおいてPP包装へ特段の規制はない。
22	リサイクルプロセスの適合評価において、EU域外で評価なされた施設が多いまたは少ない国・地域はありますか。	リサイクル専用サイトで確認できる。 https://ec.europa.eu/food/food-feed-portal/screen/fcm/ron
23	2030年までにリサイクル素材の10%以上にするという指針の中で、現状はPET以外のプラスチック素材では対応が不可能であると認識しています。2030年までに世界的にPPやPEのケミカルリサイクルが進む算段があるのでしょうか。	オレフィンのケミカルリサイクルは依然技術開発の途上にあり、めどが立ったとは言えない。

2024年7月11日

開催加工食品輸出事業者のためのEU 包装及び包装廃棄物規則（PPWR）セミナーQ&A

	講師への質問	回答
24	マヨネーズの容器のように主素材のPEが95%以上あればこれはリサイクル可能（区分A）とみなされるのでしょうか？それともバリア層が少しでも入るとリサイクル不可となるのでしょうか？もしご見解があればご教示頂きたく存じ上げます。	複合材料においてマイナーな層は重量比率に制限を設け規制対象外とされる可能性がある。
25	各国のポジティブリスト掲載物質・基準の比較・相関について情報があると大変助かります。 （例：A国の基準に準拠していればB国の基準内になるや、C国で〇〇を禁止しているがその他の国では認可しているので注意が必要など） また、危惧されることが多い可塑剤があれば情報をいただけると幸いです。	各国それぞれ異なる制度を持っているので具体的に問い合わせられたい。可塑剤についても国を指定して問い合わせられたい。
日本の動向		
26	同法律が日本国内に適用が進むでしょうか。	来年の通常国会で「資源有効利用促進法」の改正が行われる予定。
27	日本の包材メーカーやそれらを使用する日本の食品メーカーが本規制に対応できるのかどうか不安がありますが、現状ではどうなのでしょう。	業界の欧州規制動向（PPWR）への関心は高い。
28	日本ではまだ1社しか認められたリサイクル業者がないという認識であっていますか。	3社登録された。リサイクル専用サイトで確認できる。 https://ec.europa.eu/food/food-feed-portal/screen/fcm/ron
リサイクル技術		
29	PP、PEのリサイクルの承認がPETに比べて圧倒的に少ないのはなぜでしょうか。PP、PEはケミカルリサイクルが必要とのコメントでしたが、承認されている実績があるので可能という理解で良いのでしょうか。リサイクル可能な包材の考え方はメカニカルリサイクルをベースに考えられるのでしょうか。	オレフィン（PETと異なり）製品の使用過程でポリマー鎖が切れたとき、回復される技術がない。これは機械特性の低下となる。また用途が広いため、1つの製品分野の量が小さい。これがマテリアルリサイクルでの問題解決を難しくしている。
30	複合素材の考え方を教えてください。PET/AL/NY/PE構成の場合 30%リサイクル材を含むというのはAL含む総重量の30%という考え方でいいのでしょうか。	材料それぞれをベースとして計算する。
31	本EU規則はPIRを対象としておらずPCR由来で所定の数値割合を満たす必要があるということでしょうか。また、High-Quality recyclingは定義からすると高度選別されたメカニカルリサイクル、ケミカルリサイクルやフィジカルリサイクル（溶媒洗浄）あたりを意味しているように読めますが、この理解でよろしいのでしょうか。	PCRをターゲットとしている。高い純度とは、リサイクルに由来する夾雑物が人の健康を損なわないよう品質管理される目標を示すもの。ケミカルリサイクルがリサイクルの適用範囲から除外されることはない。
32	プラスチック製品のリサイクル率を上げるには「モノマテリアル」しかないように思いますがいかがでしょうか。	確かにモノマテリアル化はリサイクルへ対応する有力なオプションである。
33	各国規制に明るい包装容器メーカーなど照会できるようなところはありますか。	包装メーカーはその事業を行っている国の制度しか知らないのが一般的。

2024年7月11日

開催加工食品輸出事業者のためのEU 包装及び包装廃棄物規則（PPWR）セミナーQ&A

	講師への質問	回答
その他		
34	リサイクル材の最低含有量が求められるが、リサイクル業者の登録が必要で、現状日本に認可機能を有する機関がない。というのが、衝撃的でした。最悪、EUからリサイクル資材原料を購入するなんてことが、起こるのでしょうか。また、小売製品と業務用製品とで、扱いが変わるといえるのはあるのでしょうか。	日本においては今後リサイクルプラスチックの認証機関が設立されていくと予想している。
35	初歩からわかる書籍などの紹介があれば、教えて欲しいです。	今回のテーマは最新情報であり成書となったものはない。
36	100g前後の小袋（中に調味液を詰めます）でEU輸出の依頼が過去にあり、今後の要望として再度依頼がある可能性があるため何をする必要があるか教えていただきたいです。包材の溶出試験は包材だけの検査結果だけでなく、実際のタレを中に詰めた状態での検査が必要と聞いたことがあります間違いないのでしょうか。	調味料などの小袋は回収、リサイクルすることは難しく、この問題は欧州でも議論されている。しかし小袋を規制対象から除外する動きは確認できていない。未だ見極められていないテーマである。溶出試験は専用の溶媒を用いた試験、製品の内容物が入った試験のどちらでも可能。
37	容器包装の規制は同じ包材を使用している、中身の食品が異なれば食品への移行量等が異なることから、商品毎の審査が必要になるのでしょうか。また、ハーモナイゼーション、相互認証の制度も、中身、包材が同一である商品が前提でしょうか。	ご指摘のとおり、用途ごとに評価するが、その確定が難しいとき、欧州では1kgの食品に600cm ² の接触面積をもった包装材料の組合せを標準にする。
38	EUへ醤油の輸出を検討していますが、キャップは金属のほうが問題ないとの認識で大丈夫でしょうか？	金属の方が一般にリサイクルの実績がある点で有利である。
39	弊社醤油メーカーでは、多層素材をよく使ってます。小袋やバックインボックスなどが該当し、輸出できなくなるのではないかと危惧しております。国の方で挺入れは行っているのでしょうか？	醤油などの小袋は回収、リサイクルが難しく、この問題は欧州でも議論されている。しかし小袋を規制対象から除外する動きは確認できていない。未だ見極められていないテーマである。
40	OML,SMLの試験について、その費用が障壁となっております。分析の費用を掛けずに、理論値や自社の商品の過去の分析結果から推論値でOML,SMLの結果を出すことはできないのでしょうか？	例えばシミュレーションソフトウェアを利用し溶出量を推定することができる。
41	適合宣言書の発行の専門技術・知見を有する機関の紹介をして欲しい。	具体的紹介できるので問い合わせられたい。
42	ご講演最後にINCの禁止すべきプラスチックリストについて、NGOの賛成・反対の調査結果についてお話がありましたが、どこのNGOで、もし公開されていたら、そのwebのURLについてもご教示頂けますでしょうか。お忙しいところ申し訳ございません。	REACH24H： https://www.reach24h.com/food-contact-material/industry-news/plastics-convention-inc-3